

## 「種山ヶ原は今②9」

「俺らのがきの頃は、種山は一面野芝だったがら裸足で歩いたもんだ。あるのは馬っこも食わねえレンゲツツジだけさ。」

私たちはそんな話を聞いて、宮沢賢治の「イーハトーブ風景地」でもあり、少しでもその当時の姿を残そうと草刈りをしながら守ってきました。その当ても咲いていた「皿っこ花っこ（東菊）」やツツジも賢治の森や物見山にいっぱい咲くようになりました。そんな取り組みの記録として撮っていた写真を地区民にお見せして、「種山ヶ原は俺たちの山なんだ」という意識を持っていただきたいのです。今回から6回に分けてお知らせします。写真の説明を小洒落て俳句でと思いましたが、難しいと感じました。恐れ多く5・7・5の形で書きます。ご容赦を

# テクノボー の 写真に添えた 五・七・五



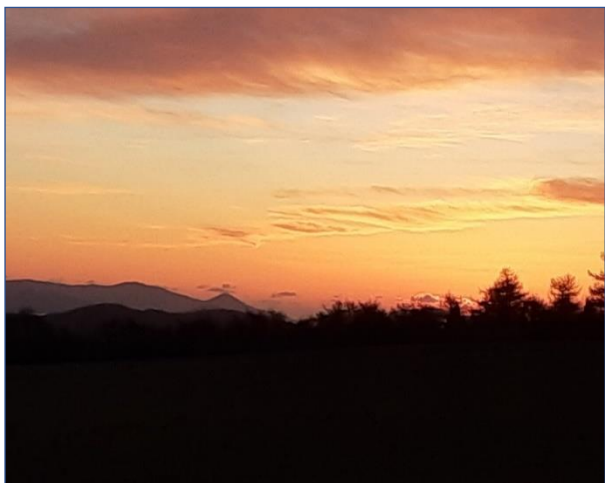
## 「種山ヶ原・朝」

テクノボー 山崎

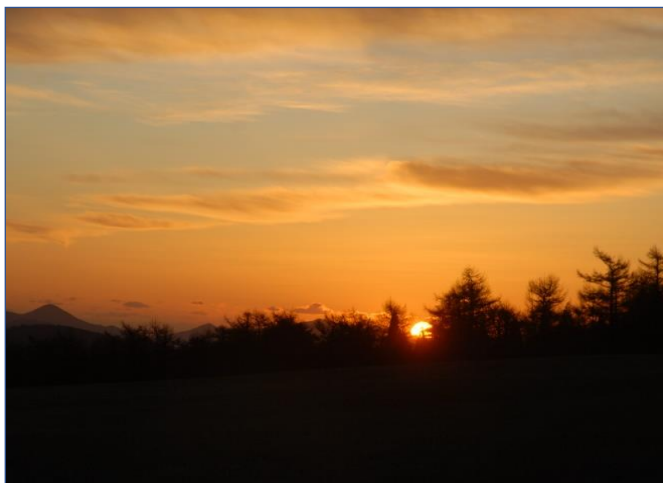
「高原に 秋陽の影 天翔ける」



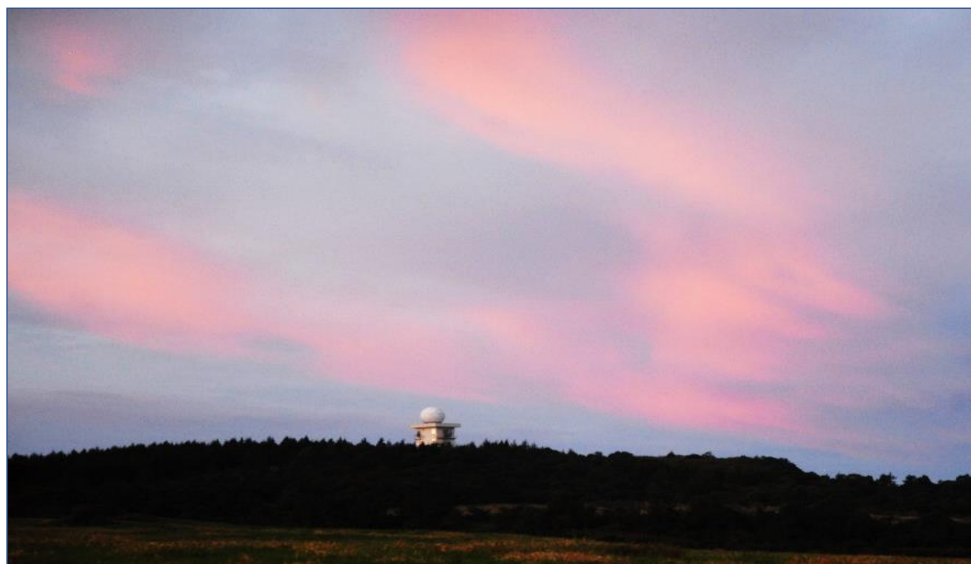
「種山ヶ原の黎明 三陸からの風」



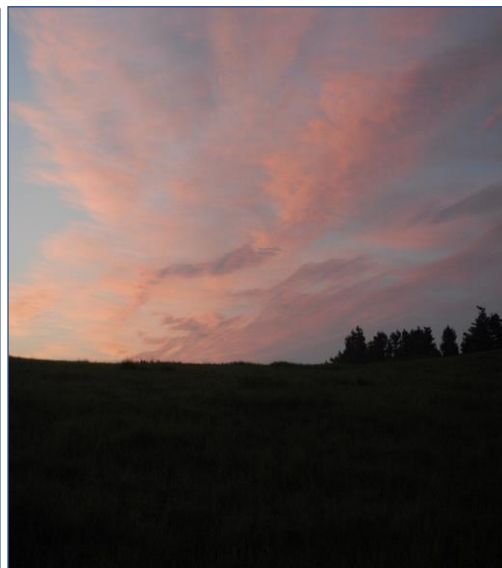
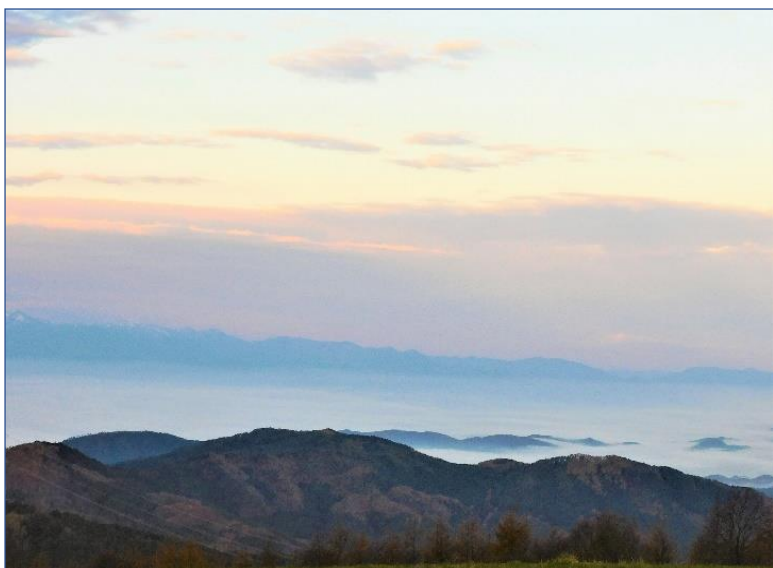
「秋朝陽ハヤブサ空に留まりぬ」



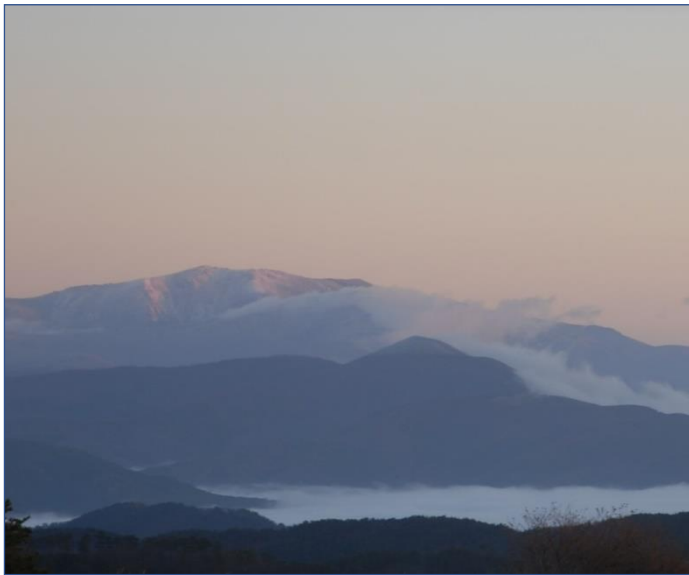
「朝焼けのオーロラに似て物見山」



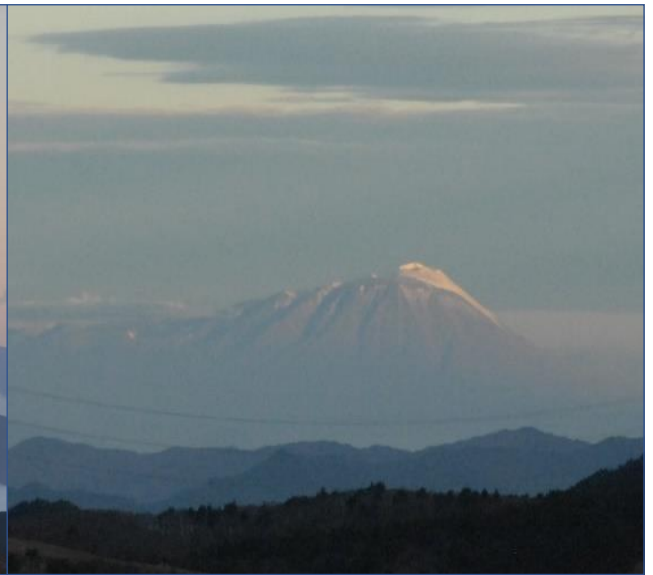
「薄紅の空 きたかみ北上平野に漂う雲の海」



はやち ね  
「早池峰山に 雲海たなびき



「見晴るかす 冠雪の峰 岩鷲山」



『牧歌』より 胆沢平野の 雲の海」



茶に染まる落葉松林に朝日射し

